



## 第2章 施策の基本的考え方





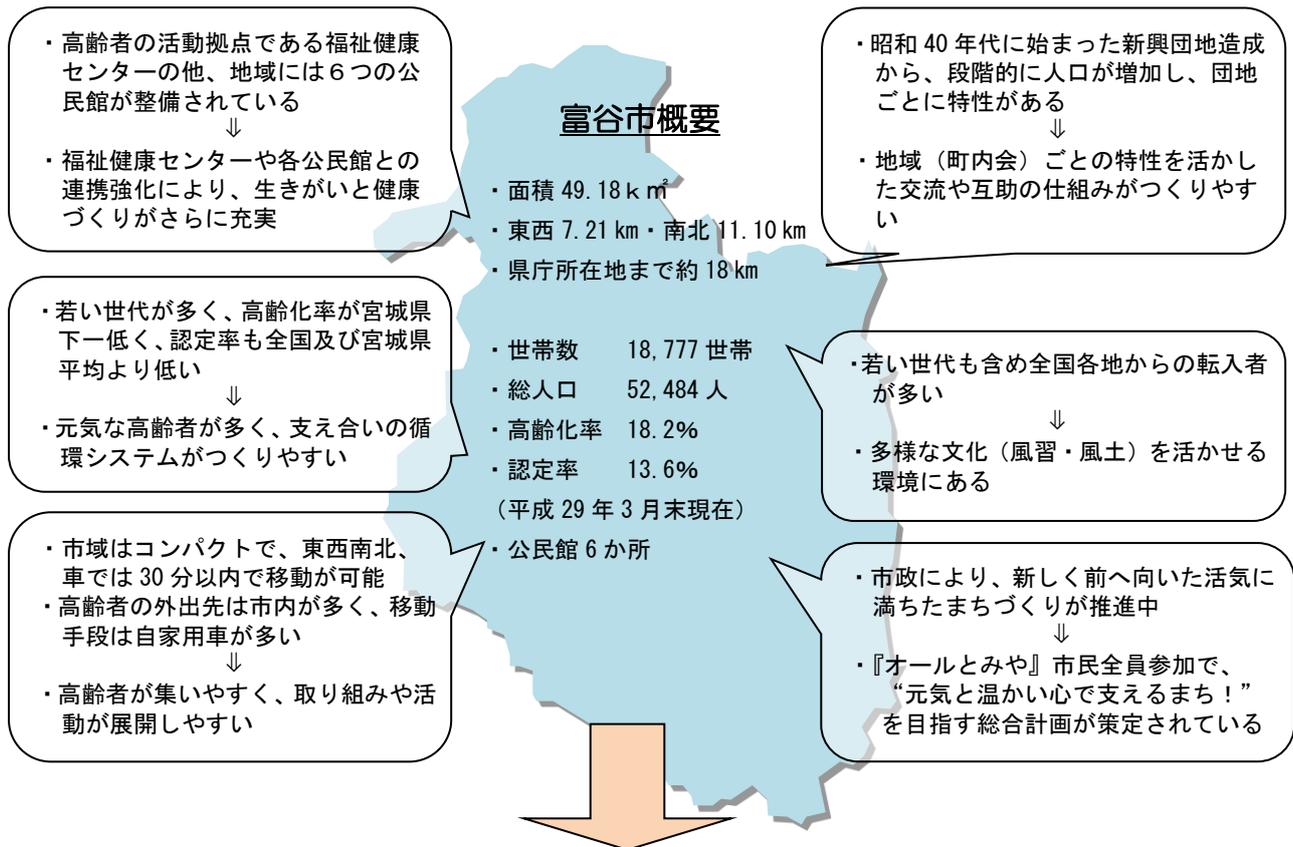


# 第1 施策の基本的考え方

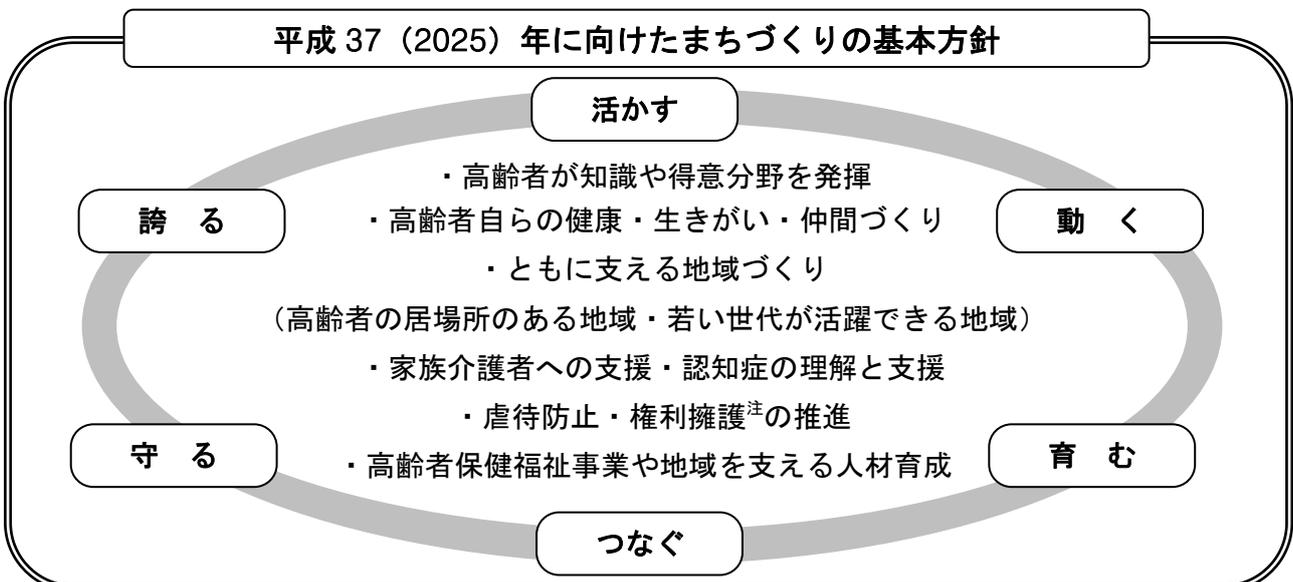
## 1 富谷市が目指す高齢者を支える環境づくり

団塊の世代が75歳以上となる平成37(2025)年には、本市においても超高齢社会を迎えると見込まれています。このため、高齢者を支える環境は、中長期的視点を持ち推進する必要があります。

本市は平成28年10月に市制移行し、市政による環境を整備しながら、地域や関係機関とともに地域力を高めることが重要となっています。



### 平成37(2025)年に向けたまちづくりの基本方針





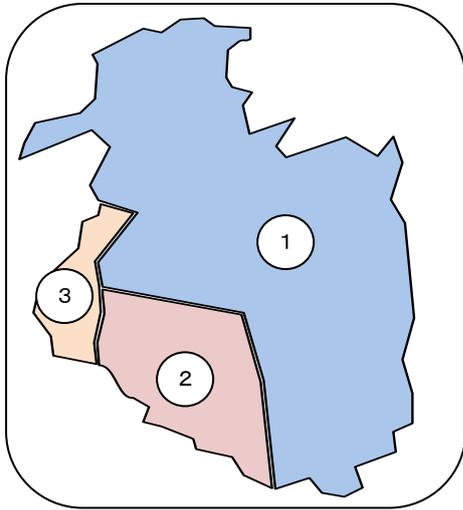
## 2 日常生活圏域

富谷市では、平成18年より生活圏域を以下の3つに設定し、サービスを提供しています。

- ①富谷中央・あけの平圏域・・・富谷旧地区、ひより台、あけの平、とちの木
- ②東向陽台・成田圏域・・・・東向陽台、成田、明石台、上桜木、大清水
- ③富ヶ丘・日吉台圏域・・・・富ヶ丘、日吉台、鷹乃杜、杜乃橋

3つの圏域を直営の保健福祉総合支援センターと委託の東向陽台・成田圏域地域包括支援センター、富ヶ丘・日吉台圏域地域包括支援センターで担当しております。(平成29年3月末時点)

平成30年度より、富谷中央・あけの平圏域についても委託し、保健福祉総合支援センターは基幹型・機能強化型に移行する予定です。



- |   |
|---|
| ① 圏域担当…保健福祉総合支援センター<br>(平成30年度より委託予定)         |
| ② 圏域担当…東向陽台・成田圏域<br>地域包括支援センター                |
| ③ 圏域担当…富ヶ丘・日吉台圏域<br>地域包括支援センター                |
| 全体統括…保健福祉総合支援センター<br>(平成30年度より基幹型・機能強化型に移行予定) |

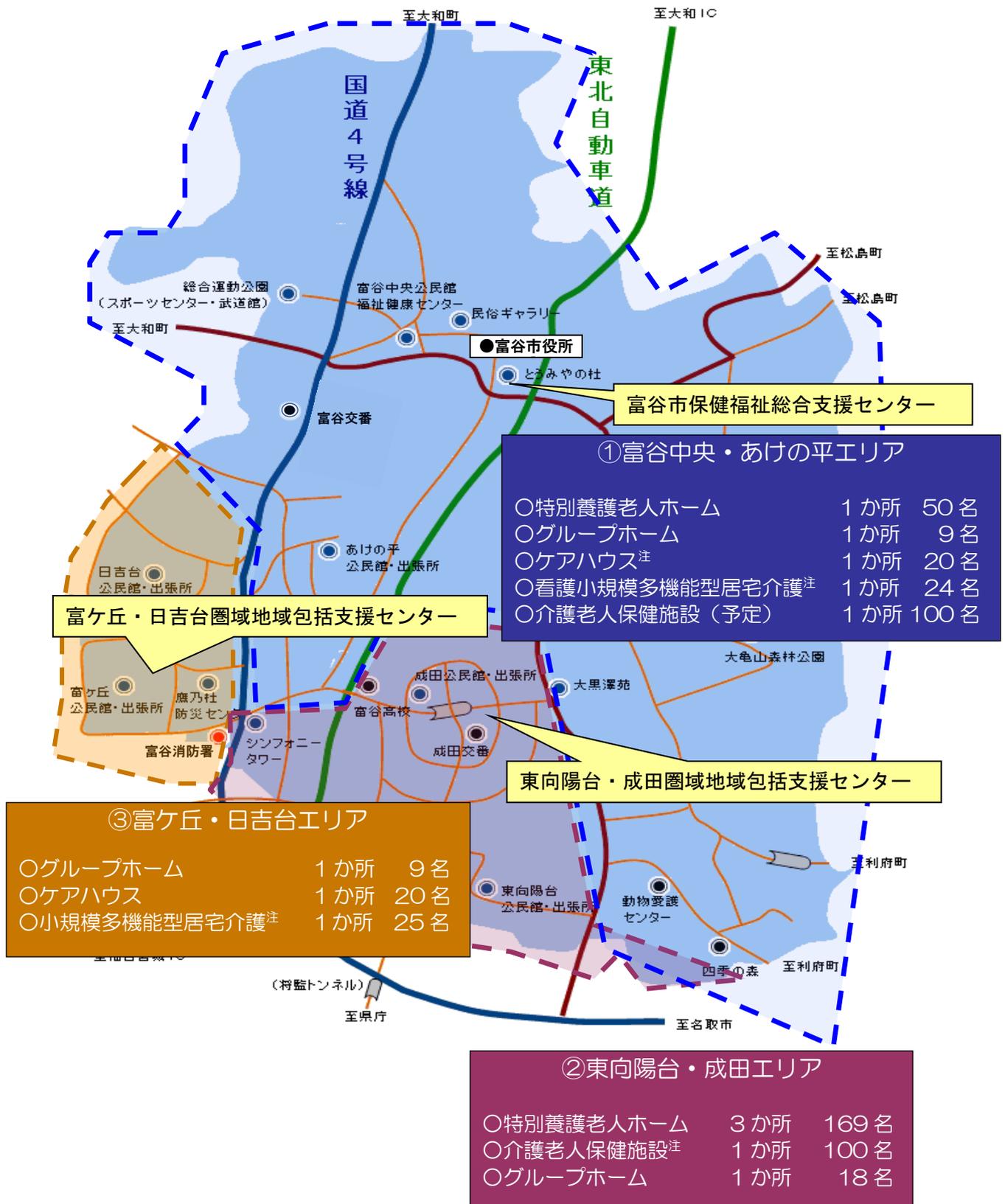
### (1) 各圏域の高齢者人口状況

(平成29年3月末時点)

区分	総人口	65歳以上	高齢化率
富谷中央・あけの平圏域	14,303人	3,521人	24.6%
東向陽台・成田圏域	25,345人	3,013人	11.9%
富ヶ丘・日吉台圏域	12,836人	3,037人	23.7%
合計	52,484人	9,571人	18.2%



(2) 各日常生活圏域における高齢者施設整備状況



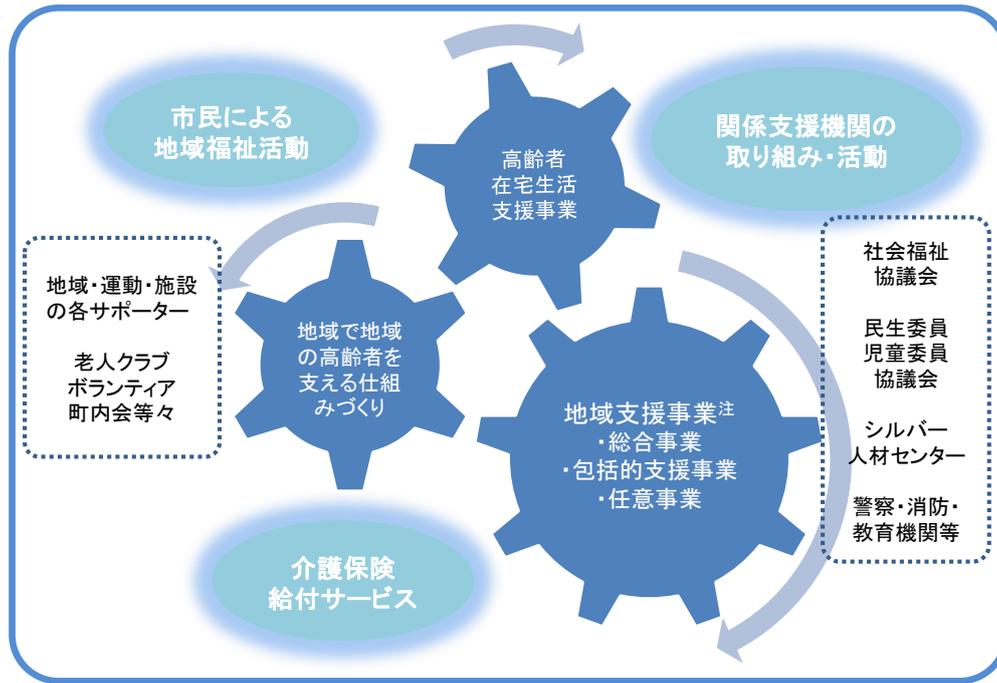
※平成 30 年 3 月末現在



### 3 富谷市の地域包括ケア方針

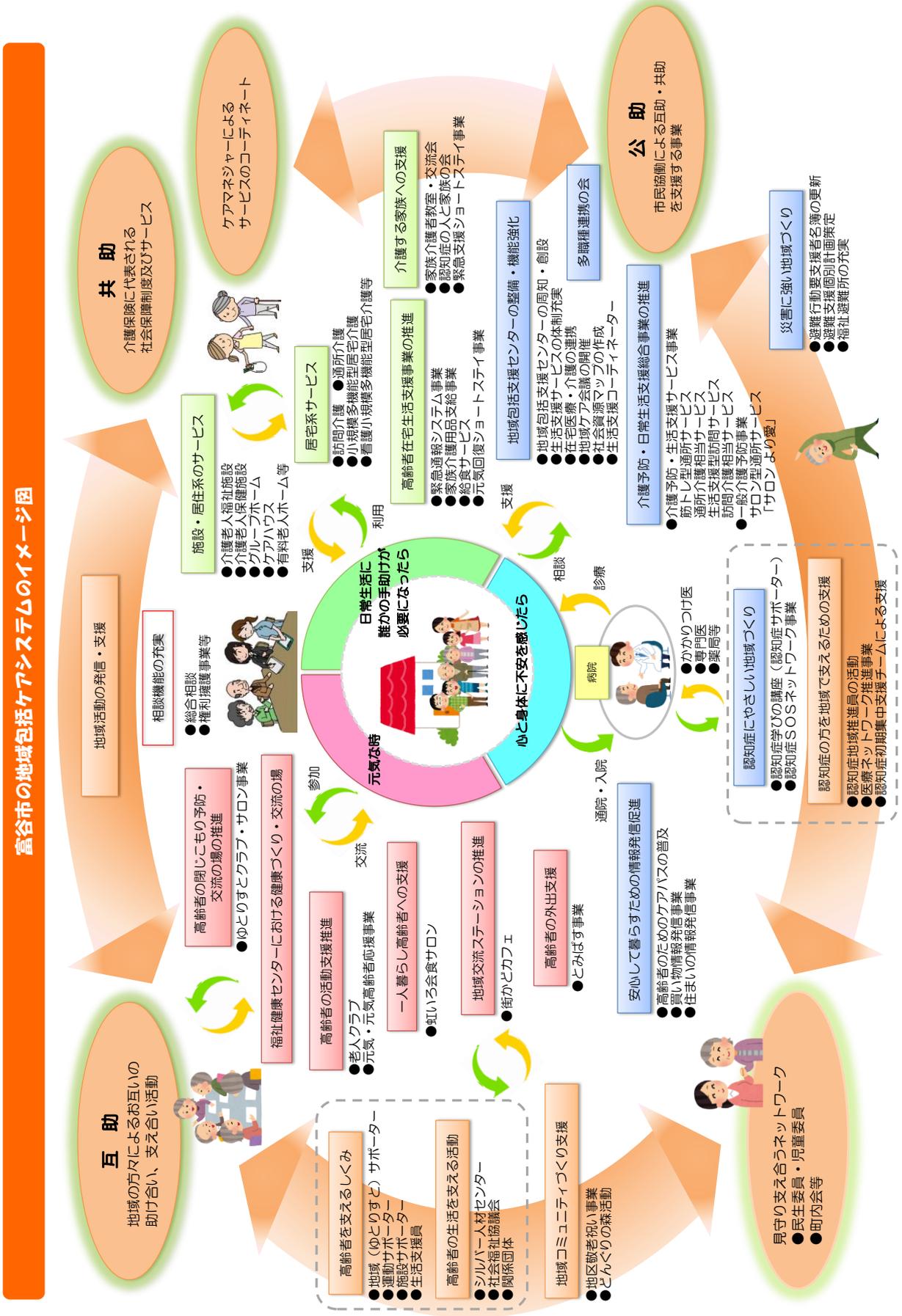
富谷市は、これまでの高齢者支援・介護予防事業・地域活動など様々な事業を繋ぎ、地域の社会資源を多面的に活用し、市と地域・関係機関がそれぞれの役割を担い、地域コミュニティを育みながら地域包括ケアを推進します。

【高齢者を支える仕組み】



資料：富谷市地域包括ケア方針及び取り組み概要平成 29 年 3 月より

# 4 富谷市における地域包括ケアシステム





## 第2 計画の将来像と基本理念

### 1 平成37(2025)年を目標とした計画の将来像及び基本理念

#### (1) 平成37(2025)年を目標とした計画の将来像

本市はこれまで、地域包括ケアの段階的構築に努めてきましたが、国は平成28年7月、『地域共生社会』という新しい地域福祉の概念を示し、“高齢者・障がい者・子どもなどすべての人々が、一人ひとりの暮らしと生きがいをともに創り、高め合う社会”を求めています。地域共生社会は、困難を持つあらゆる人を地域で支えるための仕組みであり、本市の目指すまちづくりと調和します。

本計画の上位計画となる「富谷市総合計画」は平成37(2025)年度までを計画期間とし、「住みたくなるまち日本一」を将来像に掲げ、『誰もが住みたい』『住んで良かった』と思えるまちを目指し、地域協働体制の「オールとみや」で推進していくこととしています。健康福祉分野では、「元気と温かい心で支えるまち!」を基本方針とし、高齢者や障がい者のテーマである、あらゆる世代が健康で安心して暮らせるまちづくりを目指し、施策を展開しています。

本計画においては、総合計画の第3編第1章で掲げている「あらゆる世代が元気に暮らす健康自慢のまちを創ります」を将来像とし、平成37(2025)年までの長期的な視点で計画を推進することとします。

あらゆる世代が元気に暮らす  
健康自慢のまちを創ります  
(地域包括ケアシステムの深化・推進)

#### (2) 基本理念

第6期計画の基本的考え方や目的等を踏襲し、高齢者が可能な限り住み慣れた地域でその有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができ、地域や個人がかかえる生活課題を解決できるよう「我が事・丸ごと」の包括的な支援体制を積極的に展開していくため、第6期計画の基本理念である「高齢者が住み慣れた地域で安心して自分らしく生涯を過ごせるまちづくり」を継承します。

高齢者が住み慣れた地域で  
安心して自分らしく生涯を過ごせるまちづくり



### (3) 基本目標

第7期計画が目指す「高齢者が住み慣れた地域で安心して自分らしく生涯を過ごせるまちづくり」の実現のため、2つの基本目標を新たに設定し、事業に取り組みます。

#### 地域で高齢者が自身の健康を守ることができるまち

高齢者が住み慣れた地域で、いつまでも元気でいきいきと過ごすためには、介護を必要としない心身ともに自立した健康的に生活できる期間（健康寿命）を延ばすことが大切であり、高齢者自らが主体的に行動及び継続していくことが必要です。

高齢者が生きがいを持ち、心も体も健康的に地域で自立した生活が送れるよう、高齢者が気軽に参加できる元気づくり教室や地域において知識や経験を活かせる場、世代を超えた交流の場や就労等、高齢者自身が積極的に活動できる場の支援とともに、地域全体で高齢者を見守る協働のまちづくりを目指します。

#### 高齢者の心身の変化にあわせた支援ができるまち

今後も高齢化が進行し続け、一人暮らし高齢者や高齢夫婦世帯、認知症高齢者等、支援を必要とする高齢者が増加することが懸念されています。

認知症や介護が必要になっても、慣れ親しんだ地域で安心して生活し続けることができるよう、医療や事業者等の各関係機関との連携を強化し、地域包括支援センターを主体に、重度化の予防とともに支援を必要とする高齢者の状態や生活に寄り添うサービスや体制が整うまちを目指します。



## 2 計画の体系

